福祉サービス第三者評価結果報告書【令和3年度】

2022 年　4 月　6 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　102-0083

所在地　東京都千代田区麹町3－2－6　麹町本多ビル3B

評価機関名　一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号　機構 02 ― 033

電話番号　03-3262-2260

代表者氏名　代表理事　太田　吉泰　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①	太田吉泰	経営	H0301059
	②	笹野武則	経営	H0901035
	③	齋藤　諄	福祉	H0801058
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	障害者支援施設			
	☑ 生活介護			
	☐ 自立訓練（機能訓練）			
	☐ 自立訓練（生活訓練）			
	☐ 就労移行支援			
	☐ 就労継続支援（A型）			
	☐ 就労継続支援（B型）			
	☑ 施設入所支援			
評価対象事業所名称	友愛学園成人部		指定番号	1312800046
事業所連絡先	〒	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木2丁目130番地2		
	TEL	0428-74-4192		
事業所代表者氏名	理事長　河津 英彦			
契約日	2021 年　7 月　1 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2021 年　9 月　14 日			
利用者調査結果報告日	2021 年　11 月　6 日			
自己評価の調査票配付日	2021 年　8 月　24 日			
自己評価結果報告日	2021 年　11 月　6 日			
訪問調査日	2021 年　11 月　24 日			
評価合議日	2022 年　1 月　12 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	利用者調査は聞き取り方式で実施しました。職員説明会を開いて職員自己評価を実施、訪問調査は事業所を訪問して実施しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2022 年　3 月　30 日

事業者代表者氏名 施設長　宮崎　啓太　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：障害者支援施設〕

令和3年度

《事業所名：友愛学園成人部》

1	理念・方針 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	1）利用者の一人一人をかけがえのない存在として大切にし、利用者の個性、主体性、可能性を尊ぶ 2）いかなる差別、虐待、人権侵害も行わない 3）個別性を尊重した支援に取り組む 4）よりよい生活環境を心がける 5）QOLを念頭においた支援の実践を行う
2	期待する職員像 （関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割
	＊利用者の願いや思いに耳を傾け、理解し、その実現に向けて真摯に取り組む姿勢を持ち職務に従事する人材。 ＊利用者の望む生活の実現の為、自身の知識や経験を深め、自己研鑽する人材。 ＊利用者支援や、社会貢献などのソーシャルアクションを通じ、職務職責を楽しむことが出来る人材。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	＊利用者の思いや希望に共感し、その実現に向けて全力で取り組む姿勢を期待する。 ＊自身の行動や支援が、利用者の生活の質、幸福感に繋がることを理解し、内省をもって日々支援を行う姿勢を期待する。

〔事業者が特に力を入れている取り組み：障害者支援施設〕

令和3年度

《事業所名：友愛学園成人部》

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている
タイトル①	前年度に引き続いて、食事の質の向上に取り組んでいます	
内容①	食事の質の向上を短期課題にあげて取り組んでいます。食事の提供は外部事業者の委託して行っていますので、改善策については毎月の給食会議で事業者と話し合いを重ねています。その結果、前年度は、肉や魚などの主菜量の増量、季節の果物の提供、ソフト食の導入などの改善策を実施しています。今年度も、ソフト食のモニタリングを行い、質の向上を図る、食器の更新、メニューの検討などを目標に食事の質の向上に取り組んでいます。なお、食事の提供は児童部と共管で行っていますが、食材量費の配分の適正化が課題となっており、改善を図っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル②	オンライン研修、月1回の内部研修を実施して、職員の学びの機会を増やしています	
内容②	研修機会の改善を短期課題にあげて取り組んでいます。コロナ禍の中で研修の方法が変化していますが、成人部もオンライン方式を導入して、オンライン方式の研修を中心に個人に合わせた研修計画を作成して研修を実施しています。内部研修も、現在のサービスや課題に合わせて、独自に研修内容を検討・企画し、グループワークの手法を取り入れて実施しています（月1回のペースで実施）。このように職員が、考え、自分達で答を出していく機会を積極的に設けて、学びの機会を増やしています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	【生活介護】日常生活上の支援や生活する力の維持・向上のための支援を行っている
タイトル③	創作活動から生み出される作品は個性豊かなものが多く、社会的にも評価されています	
内容③	工房YUAIでは多彩な創作活動が行われています。作品は、和紙加工品・陶器・木工品・染色品・絵画などですが、個性豊かな作品が多く、社会的にも評価され、その活動や作品はいろいろな媒体で紹介されています。成人部では、他の事業所と一緒に作品展を開催するとともに公募展等への出展を積極的に行っています。また、助成を受けて、ホームページ「YUAI PLUS」を開設したり、タブロイド版の広報紙を発行して創作活動を知らせるとともに障害者や障害者差別解消への理解を深めるよう取り組んでいます。	

《事業所名：友愛学園成人部》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「熱中できる時間」「その人らしく過ごす」をコンセプトに多種多様な活動を提供しています
	内容	日中活動は「熱中できる時間」「その人らしく過ごす」をコンセプトに多種多様な活動を提供しています。「工房」では和紙作品・陶器・木工品・染色品・絵画など様々な創作活動、「みおん」では散歩・音楽療法・音楽活動・機能訓練・リラクゼーションなどをグループで行っています。多様なメニューから利用者が自分のやりたいこと選んで、その人らしさを発揮できるよう支援を行っています。年齢や身体状況に合わせて活動時間の調整や負担の少ない活動の提供も行っています。また、創作活動から生み出される作品の展示・販売に積極的に取り組んでいます。
2	タイトル	利用者の障害特性、心身の状況に合わせて支援を行い、重度化・高齢化への対応策を講じています
	内容	支援は利用者の障害特性、心身の状況に合わせて行っています。ユニットは大まかに（介護・準介護系）（環境調整系）（準自立系）に区分し、1ユニット利用者6～8人を標準に、利用者の状況に合わせて個別的な支援を心がけています。この間、利用者の重度化・高齢化に対応して、職員の増員、間接業務の軽減（ハウスキーパーの増員、洗濯の外注化）、ソフト食の導入、PT・OTによるリハビリテーションの実施、内科嘱託医（3病院）との連携などに力を入れて取り組んでいます。今年度はICT見守りシステムの導入を進め安全対策を強化しています。
3	タイトル	利用者の誕生日を「願いの叶う日」にして、利用者の個別的・個人的な要望に応えようとする取り組みを始めています
	内容	利用者の重度化・高齢化と新型コロナウィルス感染症の影響で外出や余暇活動が減少する中で、利用者が本当にやりたいと思うことを実現しようという取り組みを始めています。具体的には、利用者の誕生日を「願いの叶う日」にして、利用者の希望に基づいて企画を立てて実施しようという試みです。「コロナ」の制約があって実現の難しいことがあること、利用者のやりたいことを十分引き出し切れていないことなど、試行錯誤の段階とのことですが、利用者の個別的・個人的な要望に応えようとするもので今後に期待したと思います。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「コロナ」を契機に、利用者の地域との関係づくりや社会参加のあり方について検討することが必要になっていると思われます
	内容	新型コロナウィルス感染症の影響を受けて、利用者の生活や活動が制約される状況が続いています。感染の社会的な状況によりますが、特に外出・外食、宿泊旅行や各種の行事などは中止または制限など実施方法の変更を余儀なくされています。地域との関係でも、地域の行事も「コロナ」で中止され、また高齢化に伴い地域行事そのものが減少傾向にあるようです。利用者も高齢化により地域行事への参加が少なくなっています。このような状況を踏まえて、利用者の地域との関係づくりや社会参加のあり方について検討することが必要になっていると思われます。
2	タイトル	利用者に関する記録の内容を豊かにしていくことが望まれます
	内容	個別支援計画の作成に現場の生活支援員も携わるように変更して、個別支援計画に基づいて支援を行うよう努めています。一人ひとりの障害特性や心身の状況に合わせて個別的に支援を行っています。支援を充実していくためには、日々の記録を通じて的確に利用者の状況を把握することが必要ですが、時に利用者記録が不十分な状況があるようです。利用者に関する記録の内容を豊かにしていくことが望まれます。
3	タイトル	引き続き、法人全体で採用のあり方や人事政策について検討し、人材の確保に取り組むことが望まれます
	内容	人材の確保は重要な課題で、成人部も独自に近隣県の学校に働きかけを行うなど、将来を担う人材を採用するよう取り組んでいます。そういう努力にもかかわらず、難しい状況が続いており、求人広告への反応もあまり芳しくないようです。成人部の場合は、3交代制の勤務や立地など、職員の確保には難しい条件がありますが、引き続き、法人全体で採用のあり方や人事政策について検討し、人材の確保に取り組むことが望まれます。